

空 気



「このペットボトルの中には、何が入っているでしょう？」
教室に静かな間が落ち、「何も入ってない」という声。

そこで先生が、ふくらんだビニール袋を掲げます。すると一斉に「空気！」。見えないものが「見える形」に変わった瞬間といっていでしょうか。

続けて「空気はどこにあるの？」と先生からの問いに対し、「ここにある」「どこにでもある！」と。

「では、みんなにその空気を集めてきてもらいたい！」と、先生が告げると、嬉々として小さな袋を手を持ち、教室・廊下・トイレへと散開。戻ってきた袋を見比べながら、「いっぱい入った！」「空気ちゃんをつかまえてきたよ」と声が弾みます。

次にもっと大きな袋に挑戦。押してみると、手のひらにやわらかな抵抗。「押し返される感じがする」「フワフワしている」というつぶやきが聞こえます。続けて、「空気ちゃんのお父さんだ！！」というひと言に笑いが広がり、教室は前向きな「学びの空気」に満ちました。



「空気は見えないけれど、たしかにどこにでもあるんだね」と静かに結びます。本時のねらいが、子供自身の体験と言葉で確かめられた瞬間でした。

黒板には、子供たちの気付きが並びます。

友達の発見や発言から生活の中の「空気の姿」が立体的に見えてきます。「面白かったこと」「気付いたこと」を言葉や絵で表します。活動の余韻が残る教室で、子供たちはそれぞれの言葉を探しました。

「どこでも空気は集められた」「みんなでたくさんの空気を集めた」書き出しに迷う子には、先生が横にしゃがみ込み寄り添い背中を押します。言えたら、それが「自分の言葉」。全員が自分なりの振り返りを残すことができました。



今日の学びは、特別な道具ではなく、身近な素材から始まりました。だからこそ、教室の外でも続いていきます。帰り道の海の風、うちわのゆらぎ、湯気の立ちのぼり。見えないはずのものに、子供たちはきっと目を留めるでしょう。学校で生まれた問いは、生活の中で育ち、また明日の教室へ戻ってきます。

子供たちが体験から学んだ「空気」。

みんなで なかよ くウキ ウキと学び合う学校の空気を大切にしていきます。